

学術情報リテラシー教育の理論と動向 (骨子)

野末 俊比古

1. はじめに

- 実践に向けて
- 研修にあたって
- (学術) 情報リテラシー (教育) 観を

2. 学術情報リテラシー教育をどうとらえるか

- 情報リテラシーとは?
 - 情報を主体的に使いこなす能力
 - 問題解決能力の中核
 - 「図書館リテラシー」も (重要な) 要素
 - スキル (技能) に留まらない
 - 「中身」はコミュニティに依存

■ コミュニティと情報リテラシー（イメージ）

■ 学術情報リテラシーと図書館

3. 学術情報リテラシー教育（指導サービス）をどう進めるか

■ 『ガイドライン』における実施の手順

■ 理念（Why の視点）

■ 目標・内容 (What) / 方法 (How) / 体系化 (When, Where, Who)

- 体系表 → シナリオ → 教材
- 入学 (前) から卒業 (後) まで
- 図書館以外も含めて (授業等との連携)
- 「印象づけ」も
- らせん型で
- 多様な方法・手法を利用
- スキルに留まらず
- 利用者からみた記述で

4. 利用者 (ニーズ) をどうつかむか

- 利用者 (ニーズ) の把握 (Whom の視点)
 - demands と needs
 - データに基づいて
 - セグメント化
- 情報利用の実態
 - 「平成生まれ」

- 量的・質的な把握

- ブラウジング・チェイニング・モニタリング

5. 政策・実践・研究の動向を踏まえる

- (学術) 情報リテラシー教育をめぐる政策

- IT 基本法 (2001)

- 学術審議会建議 (1996)

- 科学技術・学術審議会報告 (2006)

- 中央教育審議会答申 (2008)

- 科学技術・学術審議会まとめ (2010)

- (学術) 情報リテラシー教育をめぐる実践

- カスタマイズ：出張講座・出前講座，オンデマンド講座，メニュー方式講習会，...

- 学び合い・教え合い：TA・コンシェルジュ，図書館サポーター，...

- 教材・ツール開発：パスファインダなど，...

- 学びの空間づくり：ラーニングコモンズ，...

6. おわりに

- 教育・学修支援の枠組みのなかで
- 大学図書館のアイデンティティと図書館員の専門性

付録 学修・教育支援と学術情報リテラシー教育

- 教育の支援は大学図書館の本来的役割
- 学習支援から学修支援へ
- 手段としての学術情報リテラシーと目的としての学術情報リテラシー
- 教育・学修資源センターとしての図書館
- “先生”としての図書館員
- 今後における学術情報リテラシー教育の方向性

